

○事業所名	olea AZUMADA		
○保護者評価実施期間	2026/1/5		2026/2/28
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026/1/5		2026/2/28
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026/3/17		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質・職員間共有の徹底	児発管を中心に全職員参画のもとアセスメントを実施し、こどもと保護者のニーズを反映した計画を作成しています。計画は全職員に共有し、日々の支援記録をもとに実践・振り返りを徹底しています。	定期的なモニタリングと計画見直しのサイクルをより体系化し、支援の質を継続的に向上させます。
2	安全管理・緊急時対応体制の整備	各種マニュアル(事故防止・緊急時・防犯・感染症対応)・BCP・安全計画を整備し、定期的な避難訓練を実施しています。ヒヤリハット事例を全職員で共有し再発防止に取り組んでいます。	マニュアルの定期的な見直しと実践的な訓練の充実を図り、安全管理のさらなる向上を目指します。
3	保護者への丁寧な対応と日常的な情報共有	利用開始時の丁寧な説明、計画の同意取得、連絡帳・送迎時の会話を通じた日々の情報共有、保護者会等の交流機会の提供を実践しています。	定期面談の機会をさらに充実させ、より深い保護者連携と満足度の向上に努めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置数の安定的な確保	非常勤職員の勤務時間帯と利用児童の需要にズレがあり、一部時間帯で配置が手薄になっています。	シフト管理の見直しと人員確保・採用強化を進め、常に適切な配置が実現できる体制を構築します。
2	生活空間の構造化・障害特性に応じた環境整備	スペースの制約と、障害特性に応じた構造化手法に関する職員の知識・経験の不足が要因として考えられます。	構造化・視覚支援に関する研修受講と環境整備の継続的な改善により、わかりやすい生活空間を実現します。
3	外部評価の実施と地域交流機会の確保	外部評価については評価機関の選定・費用面での課題があります。地域交流については地域の放課後児童クラブ等との接点が少ないことが要因です。	外部評価機関を選定して計画的に評価を実施するとともに、地域の関係機関との交流イベントを企画・実施します。

事業所名	olea AZUMADA
------	--------------

公表日 2026/3/17

利用児童

数 29

回収数 18

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18				限られた空間の中で工夫されて、レク	ございます。限られたスペースを最大限に活用し、今後も工夫を続けてまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	3		1	各事業所に職員が何人いるのかわから	配置については保護者会や個別面談等で積極的にご説明できるよう努めてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	1		1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	1		1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1		1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	2		1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18				いつも子供が喜ぶような活動が設定さ	ございます。お子さんが楽しめるプログラムを今後も企画してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	6	1	5		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	6	2	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	3				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	6	1		助言はとぼしい。	ございます。定期的な面談の機会を充実させ、より充実した助言ができるよう改善いたします。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1				
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	2	2	2	家族で参加出来るものが多いので感謝。なかなか参加出来ないが機会は設けている。 きょうだいへの支援があったかはわからなかった。	温かいお言葉をいただきありがとうございます。きょうだい向けの支援についても分かりやすく周知を徹底してまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	1	1	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	1	1	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18				いつも見てる。応援している。	温かい応援のお言葉をいただきありがとうございます。今後も積極的な情報発信を続けてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17			1	避難訓練を定期的に開催して下さり	ございます。今後も定期的な訓練を継続し、安全管理に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	3			行くまでは「行きたくない」と言っ	てございます。通所へのハードルを下げられるよう、送迎時の声かけ等で工夫してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1				

事業所名		olea AZUMADA					公表日	2026/3/17
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		利用定員の範囲内で発達支援室等のスペースを適切に活用し、安全な環境を確保しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	3	基本的な職員配置を確保しながら、利用状況に応じた対応を行っています。	時間帯や欠勤等で配置が手薄になることがあるため、シフト管理の見直しと非常勤職員の確保を進める必要があります。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	3	視覚的な手がかりやゾーニングを活用し、こどもが活動を見通しやすい環境づくりに取り組んでいます。	構造化された環境整備をさらに充実させ、障害特性に応じたバリアフリー対応を継続して改善する必要があります。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		日常的な清掃・整理整頓を徹底し、こどもが心地よく過ごせる清潔な環境を維持しています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		必要に応じてスタッフルーム等を個別スペースとして活用できる体制を整えています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	1	定期的な職員会議でPDCAサイクルを意識した目標設定と振り返りを実施しています。	全職員がPDCAサイクルに参画できる仕組みをさらに整備・強化する必要があります。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1	年1回の保護者向けアンケートを実施し、結果を職員間で共有しています。	アンケート結果を業務改善に具体的に反映するプロセスをより明確化する必要があります。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	2	職員ミーティングや個別面談を通じて職員の意見を把握する機会を設けています。	職員が意見を言いやすい環境を整え、意見を業務改善に着実につなげる仕組みを強化する必要があります。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3	自己評価を通じた内部改善に継続的に取り組んでいます。	外部評価機関を活用した第三者評価の実施に向けて、計画的に取り組む必要があります。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		法人内外の研修機会を確保し、全職員が年間を通じて研修を受講できる体制を整えています。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムを文書化し、ホームページ等で公表しています。			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		児発管が中心となり保護者との面談を通じてニーズを把握した上で、個別支援計画を作成しています。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		支援会議を定期的に行い、全職員が共通理解の下で個別支援計画の作成に関与しています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画を全職員に配布・共有し、計画に沿った支援の実施を徹底しています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動観察記録を蓄積し、こどもの適応行動の変化を定期的に確認しています。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		本人支援・家族支援・移行支援・地域支援・地域貢献の各側面を意識した計画を作成しています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		定期的な職員会議でチームとして活動プログラムを立案し、役割分担を明確にしています。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		季節行事や社会参加活動を取り入れ、毎月プログラムを見直すことで固定化を防いでいます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	こどもの特性に応じて個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。	全児童に最適な活動の組み合わせができるよう、アセスメントに基づく計画立案をより精緻化する必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前の職員打合せを毎日実施し、当日の支援内容と役割分担を全員で確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後には必ずミーティングの時間を設け、気づきや課題を職員間で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援記録を徹底し、記録をもとに支援の振り返りと改善を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2	2	定期的なモニタリングを実施し、保護者との面談を通じて計画の見直しを行っています。	モニタリングの実施頻度と計画見直しの判断基準をより明確化・体系化する必要があります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせることで支援を行っているか。	3	1	自立支援・地域交流・余暇・創作活動を複数組み合わせた支援を実施しています。	ガイドラインの4つの基本活動をより意識的に計画に反映させ、バランスよく提供する必要があります。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		活動の選択場面を意図的に設け、こどもが自分で選ぶ経験を積めるよう支援しています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議には担当職員が積極的に参加し、こどもの状況を十分に共有しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		医療機関・保育・教育等の関係機関との連携ルートを整備し、必要に応じて情報共有を行っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		学校との連絡帳や電話連絡等により、日常的な情報共有と連絡調整を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	就学前の児童発達支援事業所等と情報共有を行い、スムーズな移行を支援しています。	より積極的な情報交換と相互理解の機会を増やし、連続した支援を充実させる取り組みが必要です。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1	卒業が近い利用者については、移行先事業所との情報共有を進めています。	移行計画の立案時期を早め、支援内容の引き継ぎをより丁寧かつ計画的に行う必要があります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	地域の児童発達支援センターと情報交換を行い、連携を図っています。	スーパーバイズや研修の機会をより積極的に活用し、支援の質向上につなげる体制づくりが必要です。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	地域の行事参加機会の検討を進め、可能な範囲で交流活動を行っています。	放課後児童クラブや地域の子ども達との具体的な交流機会を計画・実施できるよう取り組む必要があります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2	自立支援協議会の情報収集に努め、地域の動向を把握しています。	協議会への定期的な参加を通じて、地域の支援ネットワーク構築に積極的に貢献する必要があります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳や送迎時の対話を通じて、日々のこどもの様子を保護者と丁寧に共有しています。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	保護者向けの情報提供や個別相談を実施し、家族の対応力向上を支援しています。	ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムの導入・充実を検討する必要があります。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		利用開始時に運営規程・利用者負担等について丁寧に説明し、疑問には随時対応しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		計画作成時には保護者との面談を実施し、こどもと家族の意向を丁寧に確認しています。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		個別支援計画を保護者に説明し、内容を確認の上で同意を得てから支援を開始しています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		日常的な相談に応じるとともに、必要に応じて個別面談の機会を設け、適切な助言と支援を行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者会や交流行事を通じて、保護者同士が交流できる機会を提供しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情受付窓口を設置し、受付から解決までの対応手順を整備・周知しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	1	HPやSNSを活用して事業所の活動情報を定期的に発信しています。	情報発信の頻度を高め、より多くの情報をタイムリーに届ける工夫をする必要があります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	1	個人情報の取扱いについて職員に周知し、適切な管理体制を整えています。	個人情報管理の手順書整備と定期研修を通じて、全職員の意識向上をさらに図る必要があります。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		絵カードやICTツールを活用するなど、こどもの特性に応じたコミュニケーション手段を工夫しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	地域のイベントへの参加や関係機関との交流を積極的に行っています。	地域住民を招いた行事の開催など、地域に開かれた事業運営をさらに推進する必要があります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	各種マニュアルを整備し、避難訓練等を定期的に実施して職員・保護者へ周知しています。	マニュアルの内容を定期的に見直し、発生を想定した実践的な訓練をさらに充実させる必要があります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的な避難・救出訓練を実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		利用前に保護者から服薬・てんかん等の情報を収集し、全職員で共有した上で支援に臨んでいます。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		医師の指示書を確認し、食物アレルギーのある児童への対応を全職員で徹底しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を策定し、定期的な研修と訓練を通じて安全管理を徹底しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		安全計画の内容を保護者に説明し、家庭での対応についても丁寧に共有しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット報告書を整備し、事例を全職員で共有して再発防止に取り組んでいます。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止に関する研修を定期的実施し、不適切な対応がないよう職員意識の向上を図っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束に関する組織的なルールを定め、保護者への事前説明と個別支援計画への記載を徹底しています。		